



Heartful Song ~こころ歌~

全日本こころの歌謡選手権大会課題曲集

YZWG-5013 発売元:A-force 販売元:クラウン徳間ミュージック販売(株)

TR No.	アーティスト	メッセージ
1	 八代亜紀	<p>「花一花」 作詞:星野哲郎 作曲:美樹克彦 編曲:若草 恵</p> <p>「死ぬまでに一度しか咲かない花があるんです。花一花というそうです。詞を書いてください」美樹克彦が星野哲郎に頼み、美樹が曲をつけた。星野は生前、曲を聴いている。八代亜紀が銀座のクラブでジャズを歌っていたころ、星野は常連客だった。不思議なことに星野・八代の曲は1曲もない。この二人の組み合わせの曲を作ろう、というのがイベント発想の原点である。</p>
2	 小田純平	<p>「回転扉」 作詞:伊藤美和 作曲:小田純平 編曲:矢田部 正</p> <p>日本のカラオケで一番歌われている歌手が小田純平だ。3歳のとき、芸人だった父と舞台上に立ち、「九段の母」を歌い、たくさんのおひねりをもらったというから、生まれつきの「芸人」である。作詞の伊藤美和とは「恋月夜」をはじめ最強のコンビである。小田の歌は「演歌ロック」というべきではないか。だからステージでのライブこそ真骨頂だ。</p>
3	 暁月めぐみ	<p>「だって GIRI GIRI」 作詞:堀越そのえ 作曲:山田ゆうすけ 編曲:杉山直樹</p> <p>追うほど逃げる男への愛と憎しみ。これっきりになるかもしれない、でも言わずにいられない。本当は引き止めて欲しい女性の強がりや、韻を踏むフレーズで描いた。フジTVの『ものまね王座決定戦』などで人気のアーティストだが、イメージを変えてパワフルにロックテイストを歌う。</p>
4	 伊藤多喜雄	<p>「いま北国」 作詞:立原 岬 作曲:野辺山 翔 編曲:杉山直樹・白木 勉</p> <p>立原岬は作家五木寛之が演歌を作詞するときの筆名。バラード風の歌詞に女流作曲家野辺山翔が曲を書き、世界的な民謡歌手伊藤多喜雄が歌う。伊藤が歌うと告げた時、作詞家は「変わったことを考えるね」と驚いた。尺八とジプシー風ヴァイオリン、それに冒頭の「どうせ行く人 やらねばならぬ」(江差追分)。これまでにない新しい歌の誕生である。</p>
5	 ケイコ	<p>「たからもの」 作詞・作曲:山崎ハコ 編曲:義野裕明</p> <p>さいはての町でひとり生きる私。たくさんの思い出を残してあなたは逝った。あなたの思い出という宝物があるから私は負けない—山崎ハコ作詞作曲。歌が出来上がったとき、この歌はクミコさん以外ないね、がハコの第一声。東日本大震災の被災地にこのような思いでいる人も少なくないだろう。</p>
6	 ケイ潤子	<p>「スター」 作詞:清志郎 作曲:若草 恵 編曲:西村真吾</p> <p>長い間トップスターの座にいた大物女性歌手に老いが忍び寄る。声の衰えは隠せない。だがトップスターの自意識だけは衰えない。気鋭の作詞家清志郎のストレートな詞をベテラン作曲家若草恵が見事なシャンソンに仕立てた。歌うのは若草と同郷の山形県出身のシャンソン中心に活躍しているケイ潤子。山形名物のラ・フランスのような曲になった。</p>

7



「ひまわり海岸」

作詞:堀越そのえ 作曲:山田ゆうすけ 編曲:杉山直樹

岩手、宮城、福島など東北の沿岸地域に、復興のシンボルとして植えられているひまわり。その花に鎮魂と希望の思いを乗せて、仙台市若林区在住の作詞家・堀越そのえが詞を綴った。被災地にずっと心を寄せ、応援し続けている日野美歌が歌ったことで、その思いがより深く伝わる歌となった。4月からのワールドニュース番組のテーマ曲候補。

8



「ワイパーはまだ直さない」

作詞:五木寛之 作曲:小田純平 編曲:矢田部 正

男女の機微を壊れかけたワイパーに事寄せた斬新な歌詞は作家五木寛之。その詞にシンガーソングライターの小田純平がスピード感あふれる曲をつけた。作詞作曲のこの異色の組み合わせはこのイベントでなければありえなかった。

9



「弓」

作詞・作曲:美樹克彦 編曲:若草 恵

歌手であり作曲家である美樹克彦に女の情念の詞を書かせたら、作詞家吉岡治もびっくりというようなものができる。それがこの曲だ。「刺さったままで重なるように落ちてゆく」という歌詞は吉岡の傑作「天城越え」に匹敵する。歌手生活50周年の小松みどりがこの歌で新境地に挑む。

10



「Espelho 鏡」

作詞:清志郎 作曲:中里哲也 編曲:藤井弘文・白木 勉

ポルトガル語のタイトルをつけた日本発のポルトガル民族歌謡「ファド」。ファドとはもともと「宿命」という意味だ。したがって詞もメロディも悲しい。偶然知り合った男女が恋に落ち、実はほんとうの兄妹だったとわかったら。血でしたためた手紙に「死ぬなよ」。悲しくも少し甘い物語。

11



「噫 西郷どん」

作詞:舟海勝 作曲:山崎ハコ 編曲:義野裕明

歴史上の人物で西郷は龍馬とともに人気の英雄だが、西郷をテーマにした歌は少ない。龍馬が「大きく叩けば大きく響く、小さく叩けば小さく響く」と評した西郷。「命もいらず名もまた金も」の西郷に日本人は指導者の理想像を見る。えびめ憲一は13年間作曲家船村徹の付き人を経験して歌手デビュー。国立の愛媛大学中退という異色の経歴である。

12



「金色の蝶」

作詞:堀越そのえ 作曲:山田ゆうすけ 編曲:杉山直樹

もしも自分があの世に旅立つ時、大切な家族や友人にどんな言葉を残したら安心して見送ってもらえるだろうか。さなぎが蝶になり飛び立つように、魂があの世に帰る時の「旅立ちSONG」である。毎年NHKホールでのパリ祭出演や、ディナーショーなど、シャンソンからジャズ、ポップス、ミュージカルナンバーまで幅広く歌う注目の歌姫。3オクターブ半という音域の広さも魅力だ。

13



「花」

作詞:Satomi 作曲:矢吹香那 編曲:杉山直樹

「笑いながら、泣きながら人は熟して魂結び…」 「花は枯れたとていくつもの種子を残し…」 。人の命を「花」にたとえたこの永遠のテーマをMILLEAがしっかりと歌う。ポップスとか歌謡曲とかジャンルを超えたこういう歌を世代を超えて一緒に歌い続けて行って欲しいものだ。